

# 第4章

## 経済構造の現状と課題

## 第4章 経済構造の現状と課題

「経済構造のあるべき姿」の実現に向けては、経済構造の状況を示すデータを捉えるとともに、それらがどのように推移しているのかを把握し、市民、事業者等と共有していくことが重要です。

そうした観点から、前章のイメージ図の①地域の「稼ぐ力」の向上～③市内経済の成長を中心とした「稼ぐ力」、④設備投資～⑨市内需要の増加を中心とした「市内資金循環」、①地域の「稼ぐ力」の向上～⑨市内需要の増加の全体を下支えする「産業を担う人材」の3つの視点で本市の経済構造の現状と課題を整理します。

視点	状況を示すデータ（年間）	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
稼ぐ力	就業者1人当たりの市内総生産額(千円) (岐阜県市町村民経済計算結果)	6,694	6,834	6,955
市内資金循環	市際収支(億円) (高山市産業連関表)	▲99	—	▲100
産業を担う人材	雇用人1人当たりの雇用人報酬(千円) (岐阜県市町村民経済計算結果)	3,886	3,786	3,826

## 1 稼ぐ力

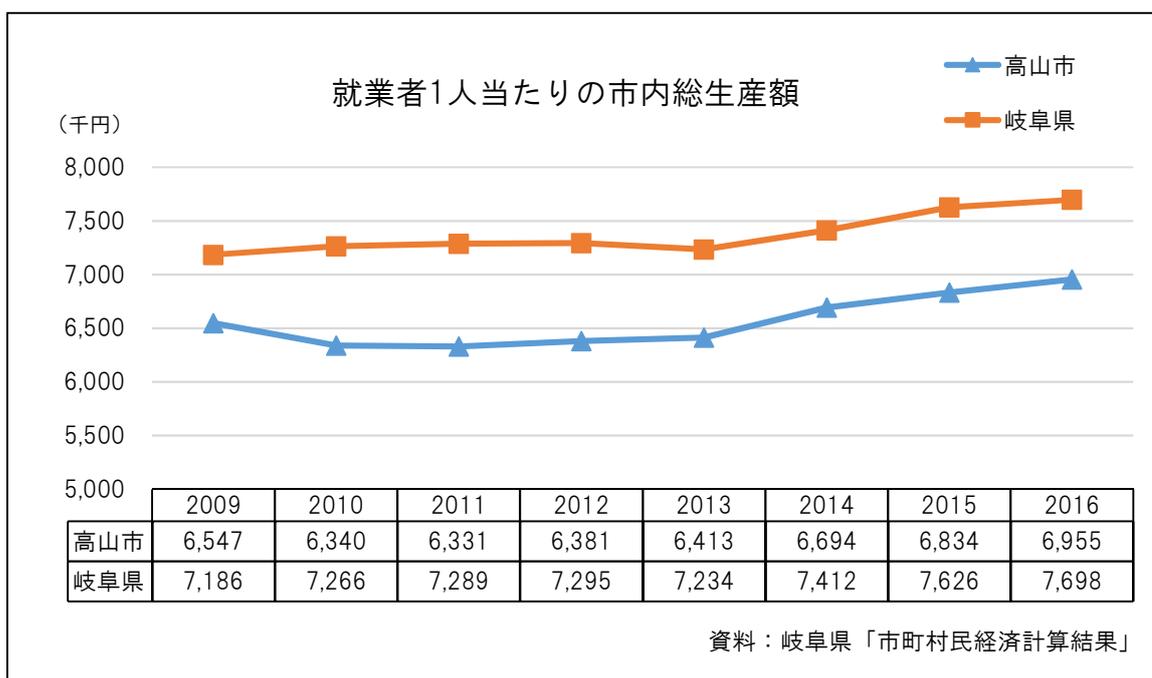
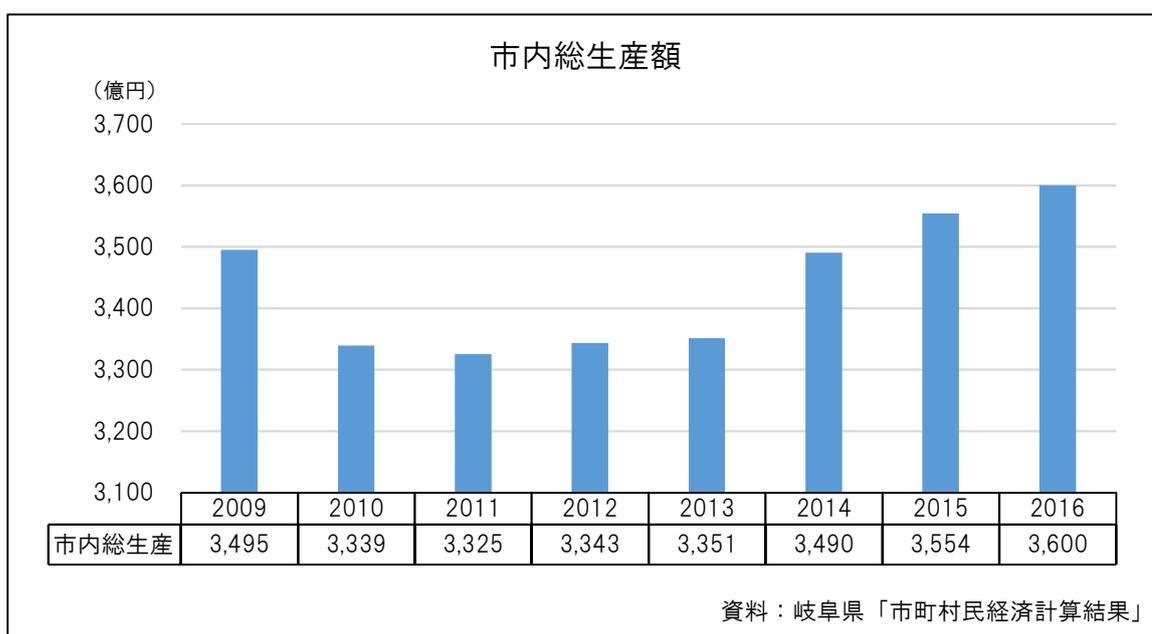
### (1) 現状

#### ① 市内総生産額、就業者1人当たりの市内総生産額

○市内総生産額は2012（平成24）年以降増加しており、就業者1人当たりの市内総生産額も増加傾向となっています。

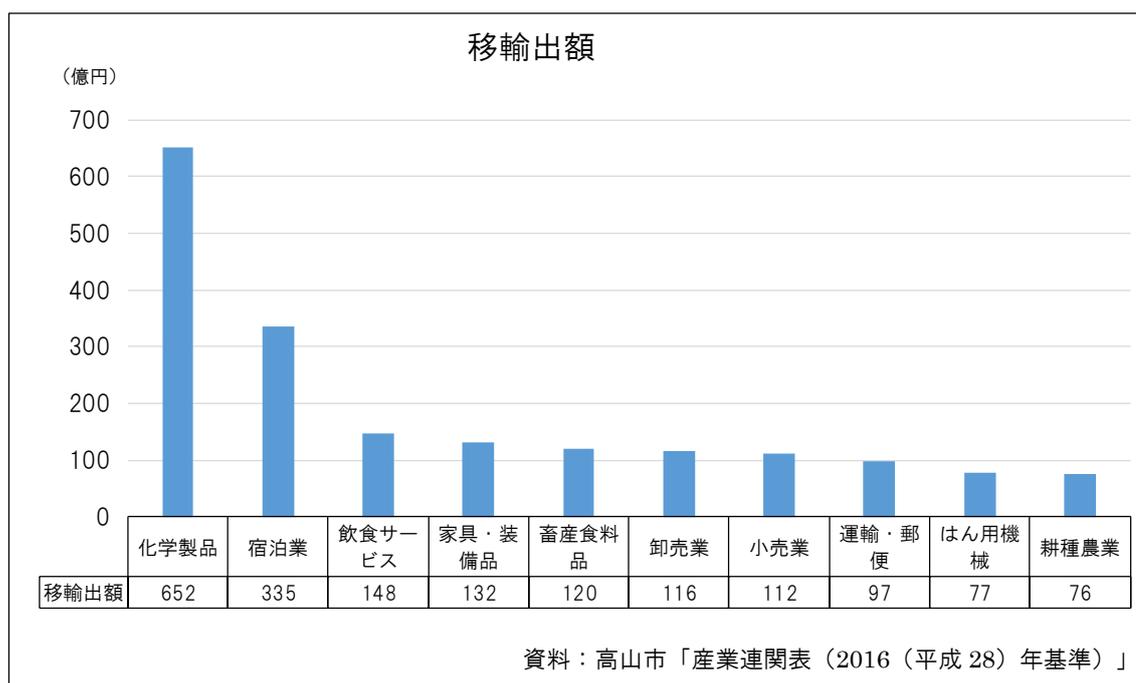
○就業者1人当たりの市内総生産額は、岐阜県の平均と比較すると低い水準となっています。

○人口減少による消費の衰退やインターネット販売などによる消費の市外流出、原材料や肥料等の高騰などのさまざまな要因が中小企業者や農業者の経営に影響を与えています。



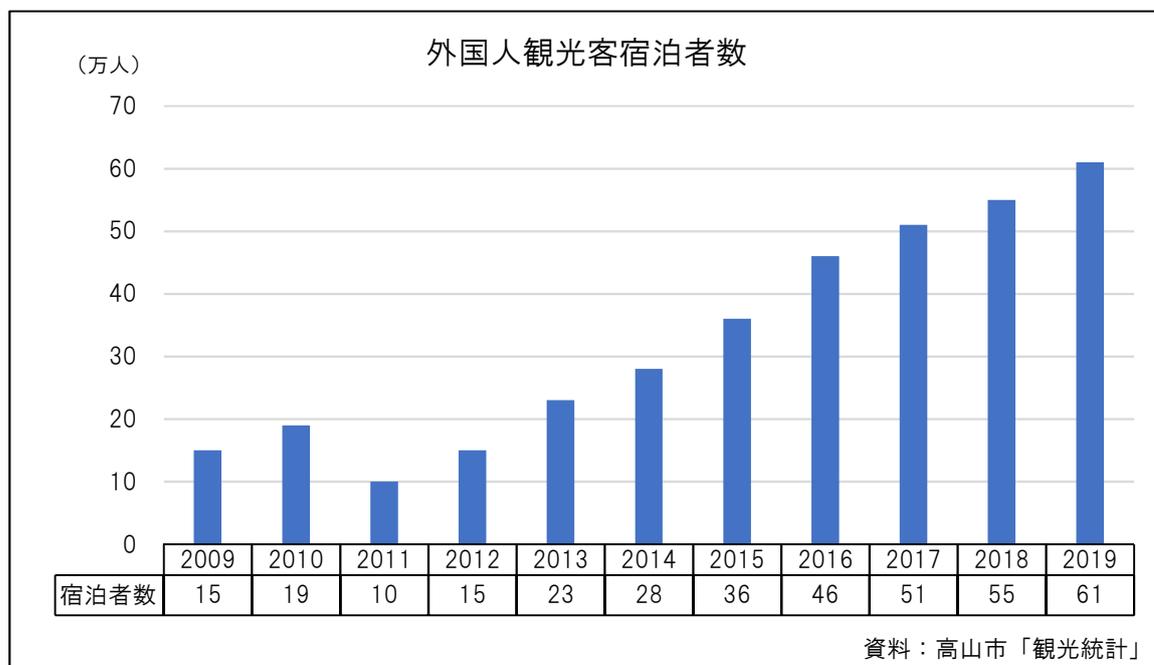
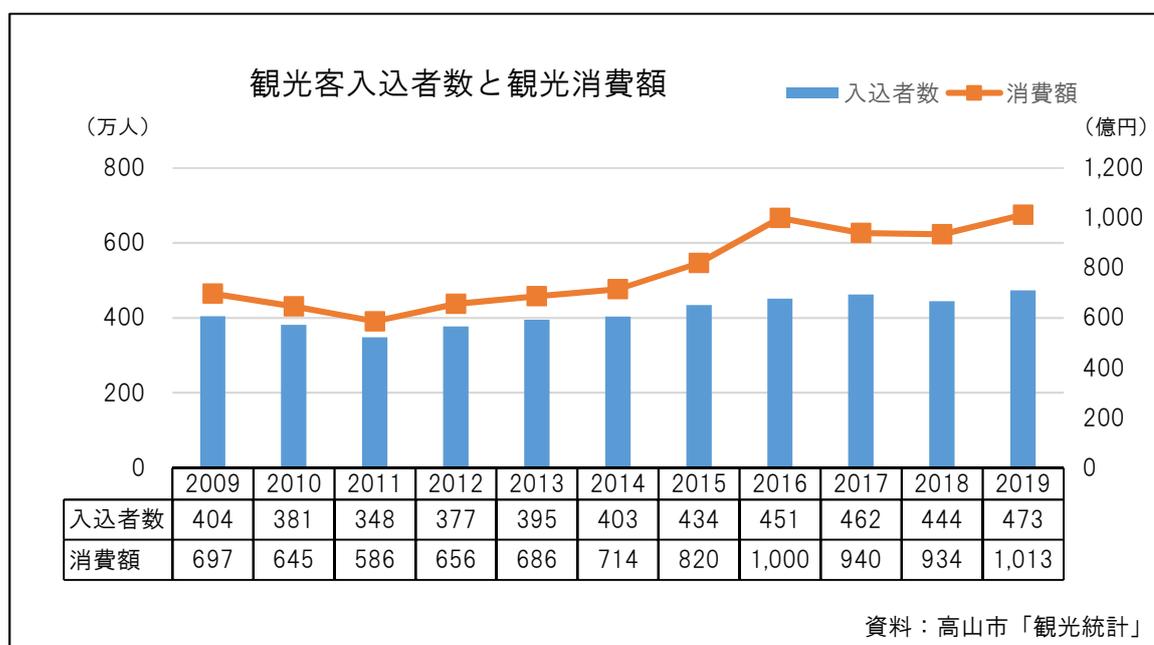
## ② 移輸出額

- 高山市産業連関表（2016（平成28）年基準）の移輸出額は2,595億円となっています。産業別にみると、化学製品、宿泊業、飲食サービス、家具・装備品、畜産食料品の順に高くなっており、これらの産業は市外から資金を稼ぐ域外市場産業（基盤産業）といえます。
- 移輸出額の増加に向け、ビックデータの活用など客観的なデータ分析に基づく事業展開やマーケティング機能の強化などにより域外市場産業（基盤産業）の成長を促進し、市外からより多くの資金を獲得していくことが求められています。



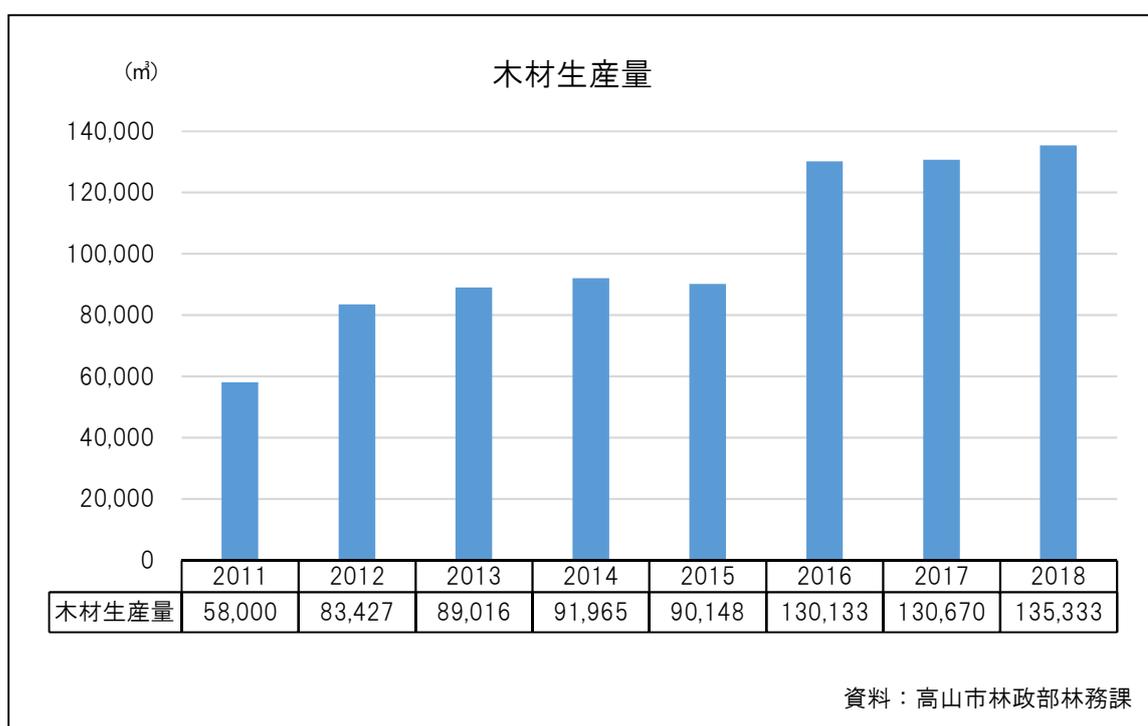
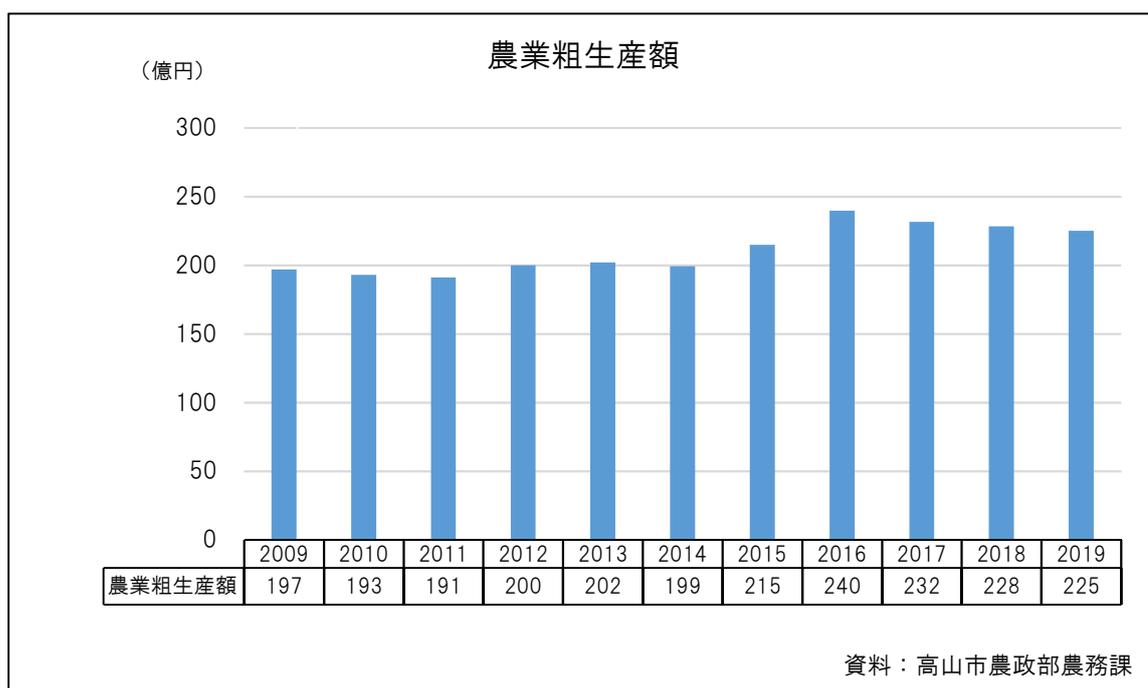
③ 観光客入込者数、観光消費額、外国人観光客宿泊者数

- 観光客の入込者数は外国人観光客の増加要因もあり、全体として増加傾向にあります。
- 観光消費額の増加に向けて、市郊外や支所地域への周遊や滞在期間の長期化を図ることで入込者数を増やすとともに、モノ消費に加えてコト消費の拡大を図り、観光客の消費単価を増加させることが求められています。



④ 農業粗生産額、木材生産量

- 農業粗生産額は2016（平成28）年の240億円をピークに、ここ数年は減少傾向となっています。
- 木材生産量は年々増加しており、2018（平成30）年には過去最高の135,333 m<sup>3</sup>となっています。
- 販路を拡大していくために、農産物の高付加価値化、木材の有効活用、畜産物の生産基盤強化など、継続的な取り組みが求められています。



**⑤ 国際情勢の変化、気候変動等**

- 資本や労働力が国境を越えて活発に移動し、貿易や海外への投資などが増大することによって、世界における経済的な結びつきが深まっています。
- 事業者においては、原材料や労働力、資金の調達範囲が広がる一方で、国際情勢の変化や気候変動、感染症の拡大などの影響を受けるリスクも増大しており、地域経済の安定性を確保するための産業構造の多様化（ポートフォリオ）の視点に立った取り組み（企業の経営の多角化、新分野への進出、新たな産業の立地、国内観光の誘客強化、さまざまな国や地域からの観光客の誘致など）が重要となっています。

## (2) 課題

### ① ブランド力の磨き上げ、魅力・価値の向上

○市街地や農山村の景観、商品・農林畜産物・サービス、そこに住む人々の心とそれらを包含する地域全体のイメージで構成される「飛騨高山ブランド」にさらに磨きをかけ、魅力や価値を高めていく必要があります。

### ② 客観的なデータ分析等に基づく事業展開、マーケティング機能の強化

○経済のグローバル化がすすむ中、持続可能な地域経済を形成するためには、事業者の客観的なデータ分析に基づく事業展開や、マーケティング機能を高めていく必要があります。

### ③ 新商品・新サービスの開発促進

○消費者ニーズを的確に捉えた商品・サービスづくりのほか、時代を先取りした新商品・新サービスの開発による新たな需要の開拓、販路の拡大に取り組んでいく必要があります。

### ④ 経営基盤の強化、産業構造の多様化

○地域経済は、世界経済のグローバル化などにより、国際情勢や世界経済の動向、気候変動や感染症拡大などの影響を受けやすくなってきています。地域経済の安定性を確保するため、経営の多角化や新分野への進出、さまざまな産業分野の企業の集積などを促していく必要があります。

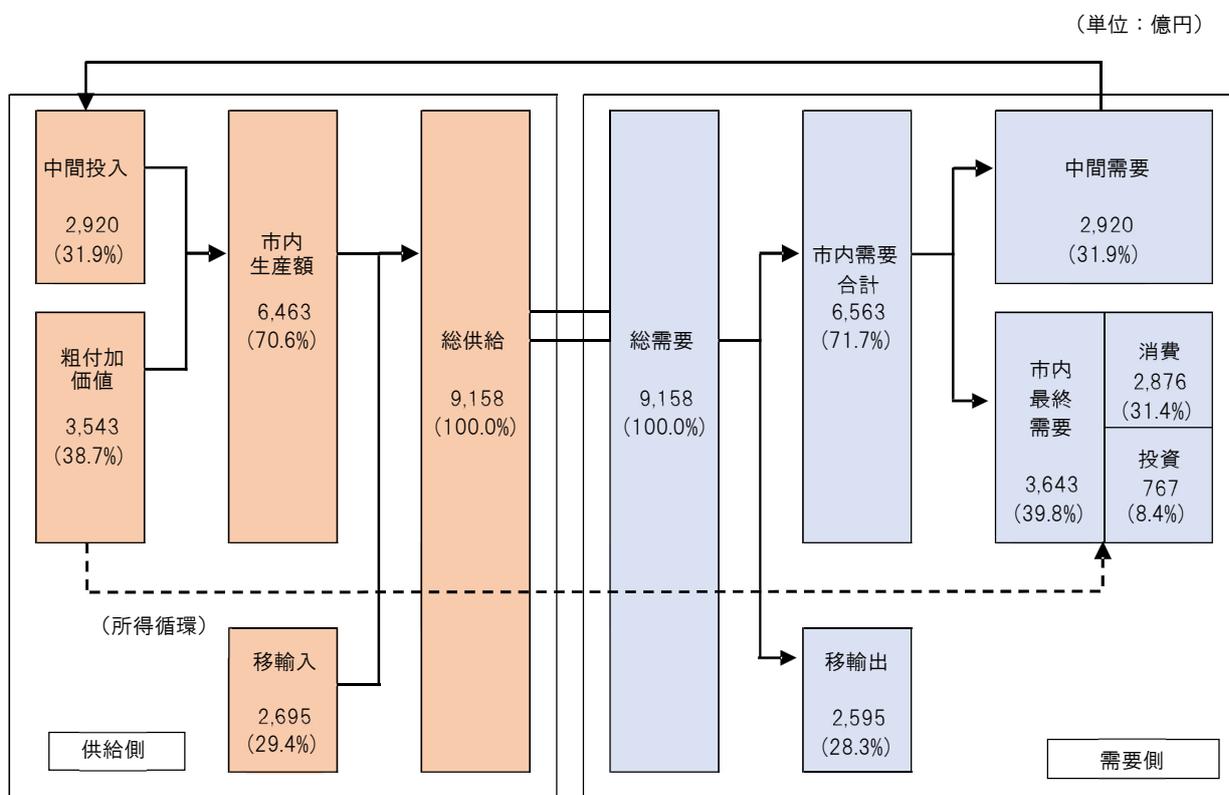
## 2 市内資金循環

### (1) 現状

#### ① 市際収支、市内調達率

○高山市産業連関表（2016（平成28）年基準）を見ると、市際収支は▲100億円、市内調達率は58.9%となっています。産業間や企業間の連携、市民の協力を深め、商品やサービス、エネルギーなどの市内調達率の向上などに向けた取り組みを促進することにより市外への資金の漏出を少なくし、市内需要の拡大を図ることが求められています。

○産業間・企業間の連携や市内での雇用の確保、町並み景観との調和、産業振興団体への参画・協力などについて、域外資本企業の理解と協力が求められています。



$$\text{移輸出} - \text{移輸入} = \text{市際収支}$$

$$2,595 - 2,695 = \blacktriangle 100$$

$$\frac{(\text{中間需要} + \text{市内最終需要} - \text{移輸入})}{\text{市内需要合計}} = \text{市内調達率}$$

$$\frac{(2,920 + 3,643 - 2,695)}{6,563} = 58.9\%$$

② 中小企業者等の経営

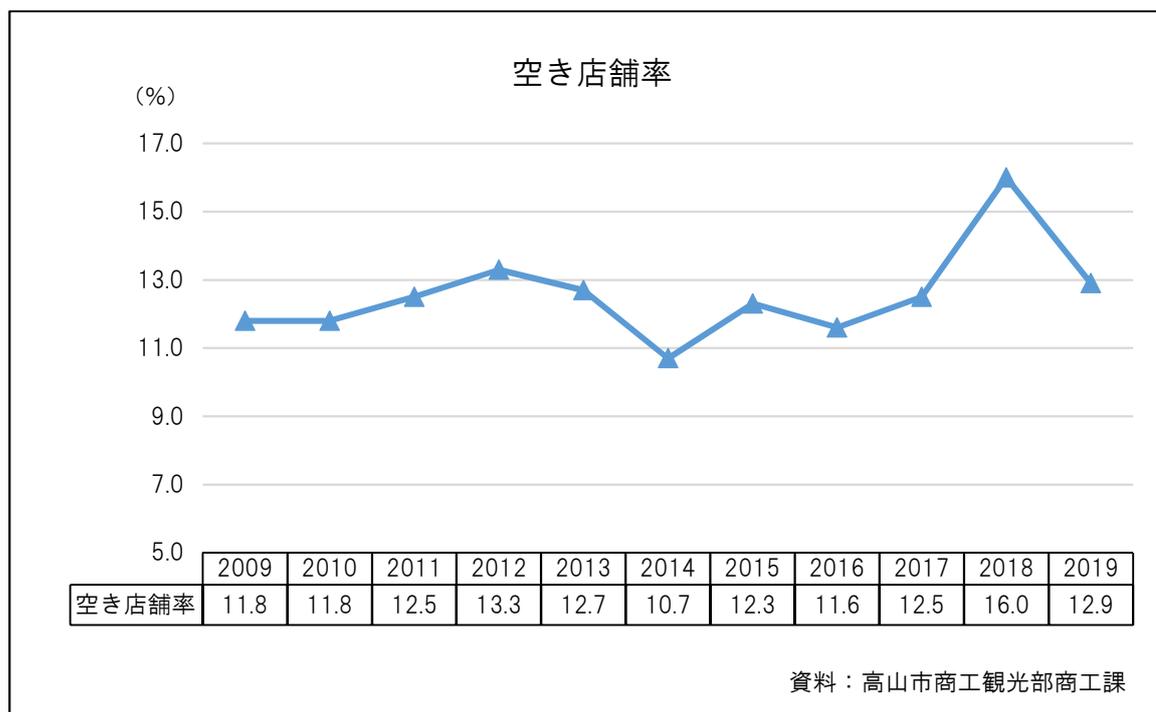
○産学金官や異業種の連携を促進することにより、大学や金融機関、異業種の知識や技術、経験、データなどを最大限に活用し、中小企業者等の経営改善や競争力を強化することが求められています。

③ 新技術、新生産方式

○生産年齢人口が減少し、労働力不足が深刻化していく中、新技術や新生産方式の導入や農地の集約化、林業と建設業の連携による林業生産性の向上、耕畜連携による家畜ふん尿を利用した飼料作物の生産、ごみの削減と資源化による地球環境に配慮した企業経営などを促進し、市内産業の生産性や競争力を高めていくことが求められています。

④ 空き店舗率

○中心商店街<sup>16</sup>の空き店舗率はほぼ横ばいで推移しています。下町エリア<sup>17</sup>では市民や観光客の回遊性や滞在時間の面で課題が多く、空き店舗率も高い状況にあります。「観光まちづくり<sup>18</sup>」の視点に立ち、クオリティの高い商業空間の創出、利便性や回遊性の向上、定住人口の増加などを図り、魅力ある都市空間を形成することが求められています。



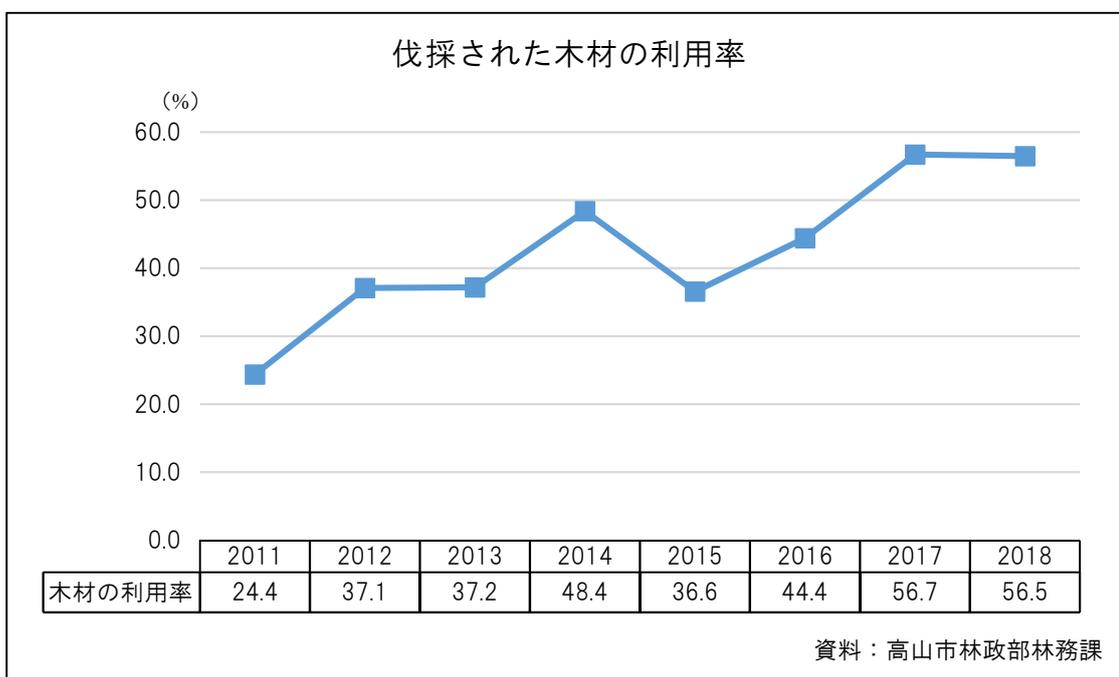
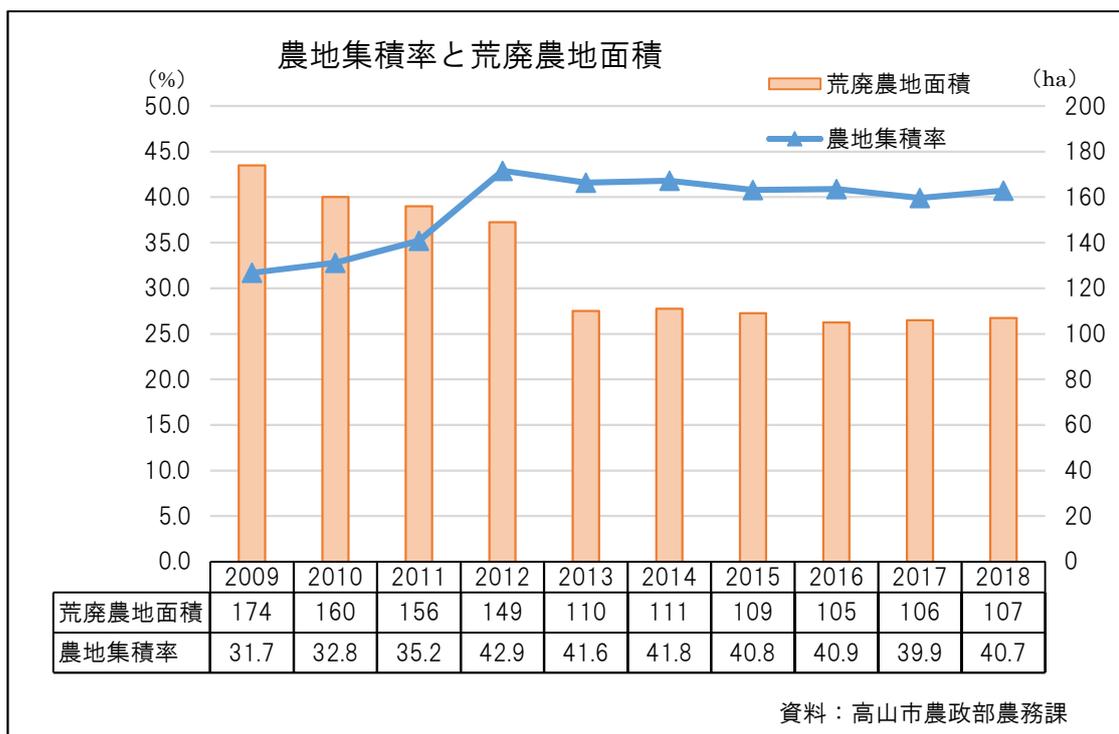
<sup>16</sup> 中心商店街  
：中心市街地内の10の商店街振興組合がある地域

<sup>17</sup> 下町エリア  
：国道158号線以北の宮川河川軸の周辺エリア

<sup>18</sup> 観光まちづくり  
：地域が主体となって、自然、文化、歴史、産業など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を振興し、活力あふれるまちを実現するための活動

⑤ 農地集積率、荒廃農地面積、木材の利用率

- 担い手への農地集積率は2012（平成24）年までは増加傾向でしたが、その後は概ね横ばいとなっています。
- 荒廃農地の面積は2013（平成25）年までは減少傾向でしたが、その後は概ね横ばいとなっています。
- 伐採された木材の利用率は増加傾向となっています。
- 担い手への農地の集積や荒廃農地などの有効活用、伐採された木材の有効活用などを図り、優良農地の確保・利用、木材の利用を促進することが求められています。



## (2) 課題

### ① 市内資金循環に向けた機運の醸成

○市外への資金の漏出を防ぎ、域内調達率を高め、市内経済の波及効果を高めていくためには、関係者が共通認識をもって産業間・企業間のつながりを深め、市内資金循環の取り組みを着実にすすめていく必要があります。

### ② 域外資本企業との共生

○域外資本企業の市内への立地が増加する中、市内の産業振興団体への参画・協力、町並み景観への配慮、市内資金循環の促進、市内における雇用の確保など、域外資本企業の理解を深め、地域のブランド力向上に向けた連携強化を図る必要があります。

### ③ 産学金官・異業種連携の促進

○大学や金融機関などの専門知識や能力、経験、蓄積されたデータなどを最大限に活用するとともに、異業種の連携による新たな事業展開などを促進し、中小企業者等の経営革新、持続的発展を図る必要があります。

### ④ 新技術・新生産方式の導入促進、生産性の向上

○生産年齢人口が減少し、労働力不足が深刻化していく中、新技術・新生産方式の導入促進や農地の集約化などにより、経営の効率化・省力化を図り、中小企業者や農業者の生産性と競争力を高めていく必要があります。

### ⑤ 産業振興策と土地利用の連動

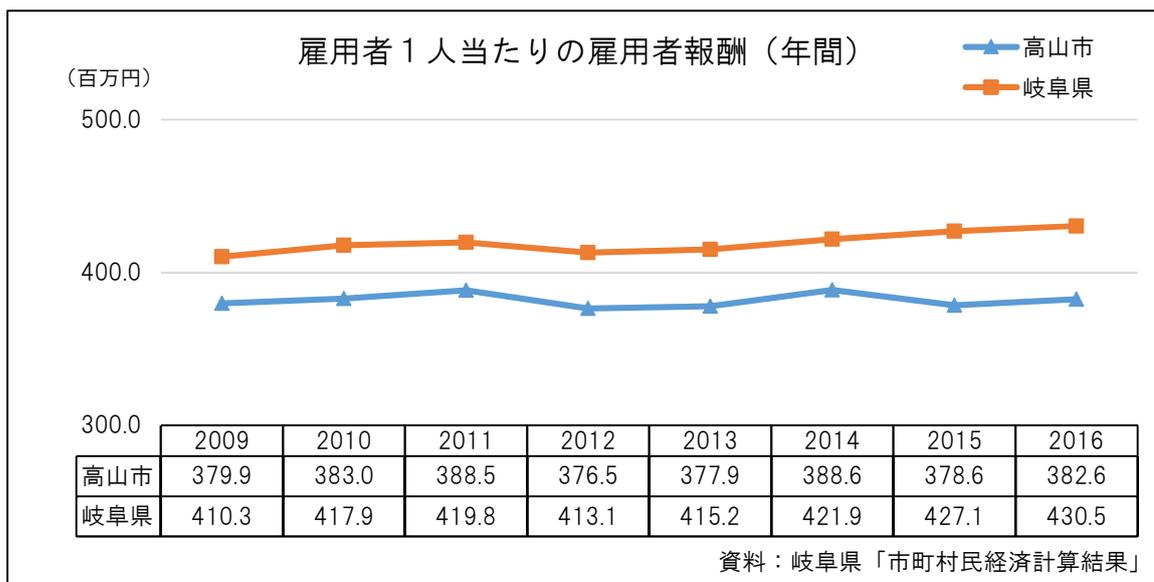
○中心市街地の魅力の向上、農山村の景観の向上、秩序ある土地利用などを推進するとともに、産業振興策と土地利用の考え方を連動させ、まちの魅力と価値を一体的に高めていく必要があります。

### 3 産業を担う人材

#### (1) 現状

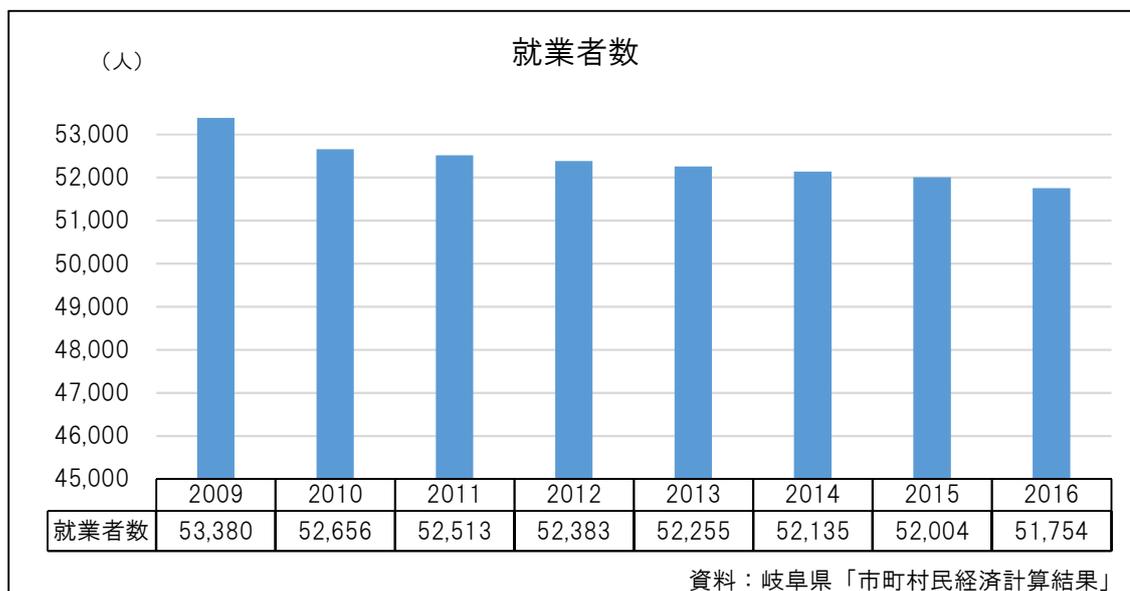
##### ① 雇用者1人当たりの雇用者報酬

○雇用者1人当たりの雇用者報酬は、県と比較して低いレベルで推移しており、若者の地元への定着率が上昇しない要因の一つとなっているため、賃金水準の向上が求められています。



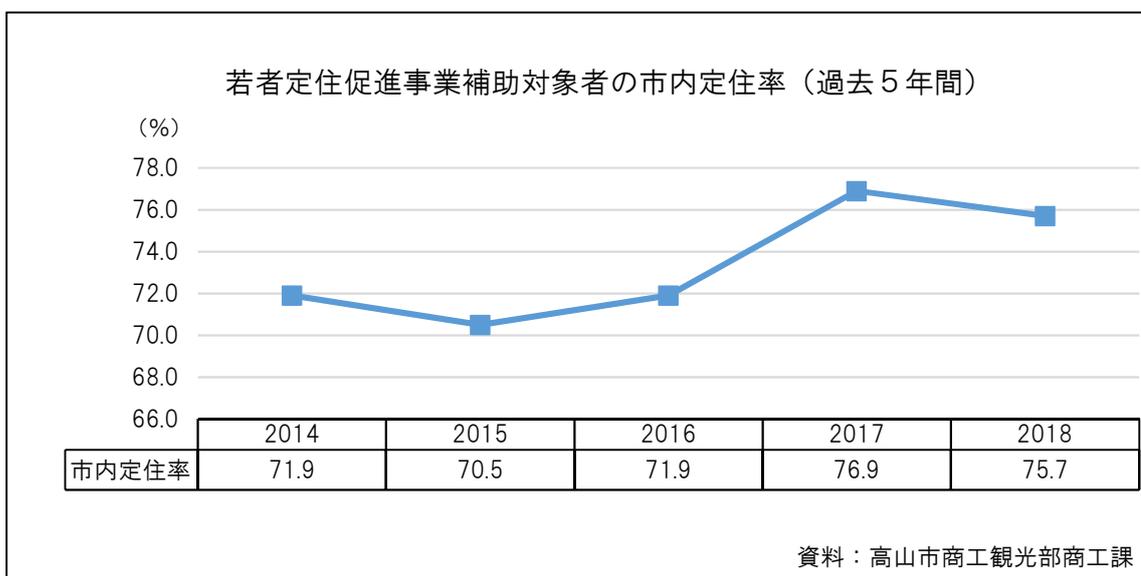
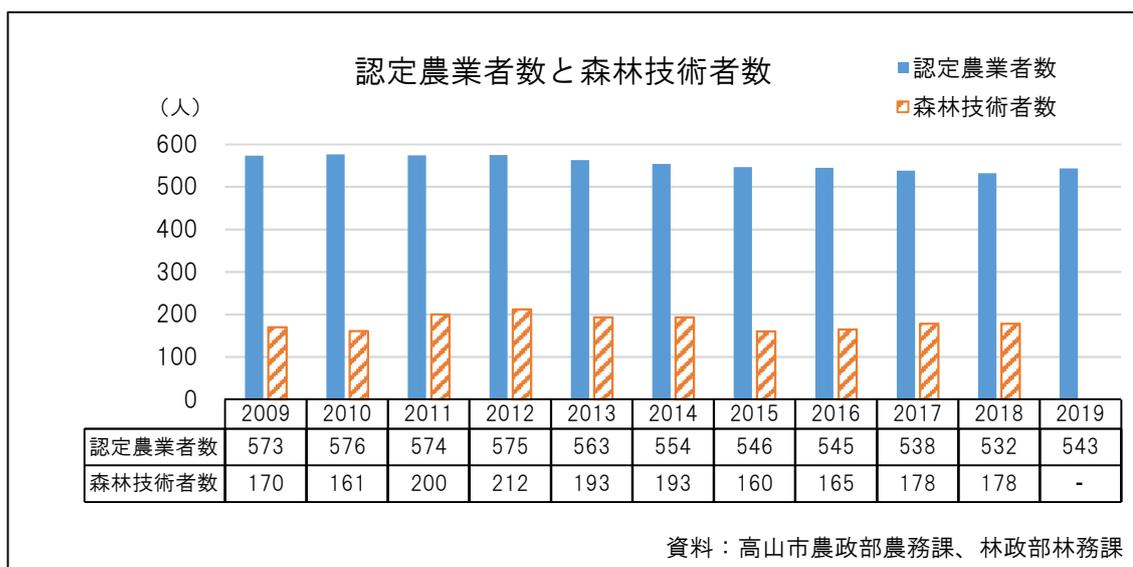
##### ② 就業者数

○市内の就業者数は年々減少傾向にあります。本市を含む飛騨地域は他地域からの通勤が困難な地勢であるとともに、生産年齢人口の減少や若者の地元離れに歯止めがかかっていないため、若者をはじめとした生産年齢人口の維持・増加に向けた効果的な取り組みをすすめていくことが求められています。



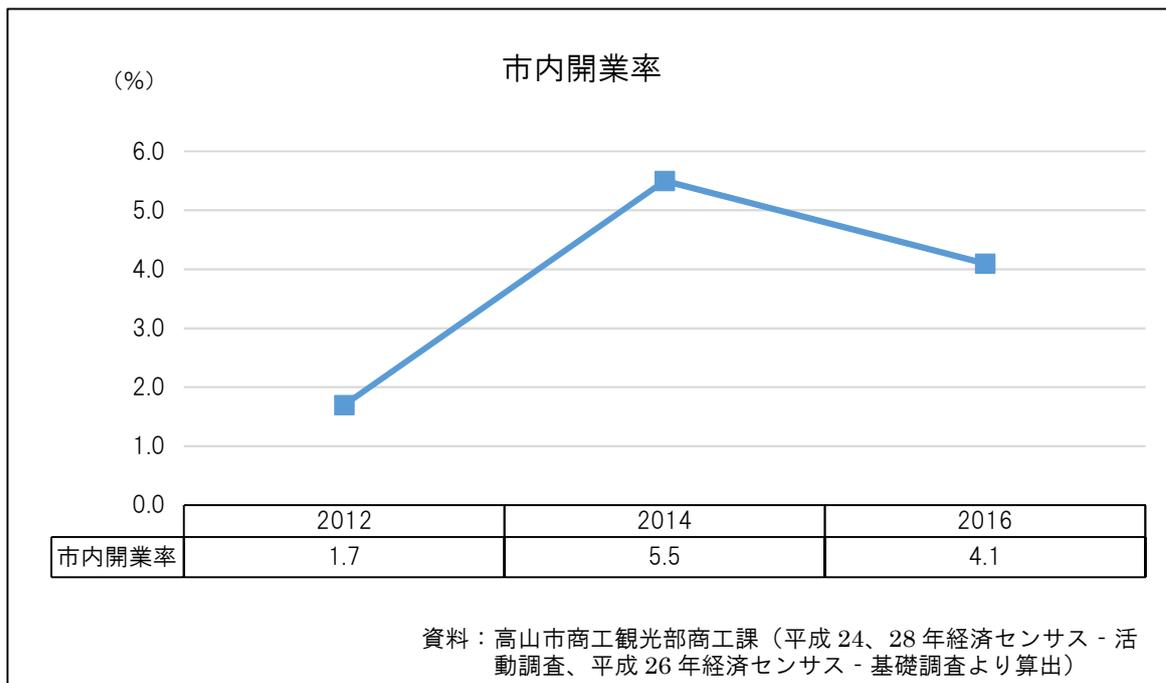
③ 認定農業者数、森林技術者数、市内定住率

- 認定農業者数は2012（平成24）年以降減少傾向となっています。
- 森林技術者数は2012（平成24）年以降減少傾向になっていましたが、近年は増加傾向にあります。
- 2018（平成30）年の若者定住促進事業補助対象者の市内定住率は75.7%となっています。
- 人材不足が深刻化している中、女性や高齢者、障がい者など、誰もが健康で働きやすい多様な働き方ができる環境づくりが求められています。



④ 市内開業率

- 市内開業率は2012（平成24）年と比較し、近年高くなっています。
- 市内において起業・創業の機運は高まっていますが、市内にはICT<sup>19</sup>や企画・デザインなどのクリエイティブな分野の人材が不足しています。
- 市内の商品やサービスの競争力を高めていくために、クリエイティブ人材<sup>20</sup>の増加が求められています。



⑤ 事業承継、後継者育成

- 各産業を担う経営者や高度な専門技術・経験を有する人材が高齢化しており、事業の継続やものづくりなどの技術の継承が危ぶまれているため、官民連携による事業承継や次代を担う後継者育成の取り組みの強化が求められています。

<sup>19</sup> ICT

：Information and Communication Technology の略。パソコンやインターネットの操作方法から、それらを構成するハードウェア、ソフトウェアの応用技術までの幅広い範囲を示す総称として扱われる

<sup>20</sup> クリエイティブ人材

：コンピューターソフト・サービス、広告、出版など、知的財産権を有した生産物の生産に関わる産業に携わる人材

(2) 課題

① 労働者の所得の向上

○雇用者1人あたりの雇用者報酬は県内でも低い水準で推移している中、市内事業所で働く労働者の所得を安定・向上させ、充実した生活を送ることができる環境を整備する必要があります。

② 生産年齢人口の増加

○若者の定住人口が減少しており、地域の活力が失われつつある中、関係人口を獲得するとともに、若者のUIJターン<sup>21</sup>就職者をはじめ生産年齢人口の増加を図る必要があります。

③ 誰もが働きやすい環境の整備促進

○人材不足が深刻化している中、誰もが健康に働くことができる環境づくりを促し、若者や女性、高齢者、障がい者、外国人などが能力を活かして活躍できる環境を整備する必要があります。

④ 担い手の育成、次世代への継承

○各産業における事業の継続や技術の継承が危ぶまれている中、官民連携による事業承継の取り組みや次代を担う後継者育成への取り組みを強化する必要があります。

⑤ クリエイティブ人材の増加

○市内には情報通信産業や企画・デザインなどに携わる人材が少なく、市内の商品・サービスの競争力が低下しているため、ICTや企画・デザインなどのクリエイティブ人材の増加を図る必要があります。

<sup>21</sup> UIJターン

: Uターンは、就職や進学などで出身地から地域外に出て、再び出身地に戻ること

Iターンは、出身地とは関係ないところへ移り住むこと

Jターンは、就職や進学などで出身地から地域外に出て、出身地の近隣地域に戻ることに